

1 単元名 荒れ地を夢の畑に ——高師・天伯原の開拓——

2 単元目標

- ・幸校区が荒れ地から開拓されてきたことに関心を持ち、開拓に携わった人々の努力や苦労・工夫について意欲的に調べることができる。
(関心・意欲・態度)
- ・開拓に携わった人々の話や資料から、苦しい生活の中でも開拓の成功を願った先人たちの思いを考え、新聞にまとめることができる。
(思考・判断・表現)
- ・開拓に携わった人々の話や作物の生産量のグラフなどから、人々の工夫によって作物の収穫が増えたことをまとめることができる。
(資料活用・技能)
- ・幸校区が先人たちの苦労によって開拓され、発展してきたことがわかる。
(知識・理解)

3 単元構想図

1 3時間完了

地域に伝わる昔の建物や祭り・生活に関心を持ちだした子どもたち

○教師の支援

☆評価

幸校区は昔どんな土地だったのかな ①

○高師・天伯原の開拓に興味をもつように、導入として御幸神社で行われている花祭りのDVDを視聴させる。

☆昔と今の写真を比べたり、花祭りのDVDを視聴したりしてわかることを考え、開拓について関心をもつ。

○開拓の苦労や生活の様子をより深く知るため、開拓に携わった方をゲストティーチャーに招き、話を聞く機会を設定する。

○より深く考えることができるように、「校区史」などをもとに課題をしばってグループで調べ学習を行う。

○開拓の苦労が実感できるように、雑草地を耕したり水を運んだりする体験活動を行う。

☆豊川用水の通水とその後の農業の発展を関係づけて考えることができる。

○豊川用水が通水した意義を考えるため、収穫量や作付野菜の種類が変化したことを示すグラフを提示する。

☆開拓者や受け継いできた人々の働き、苦労、工夫がわかり、新聞に表現できる。

高師原・天伯原の開拓について調べよう②～⑥

(本時6/13)

・ゲストティーチャー
・インタビュー ・本など

荒れ地を開墾して畑を作った

肥えた畑になることを願って

・十分な食料がなく、さつまいもの茎なども食べたそうだよ。
・松の根が多くて、開墾ぐわを使って一日中作業しても少ししか耕せなかったそうだよ。

・糞尿やごみを肥料にした。
・畑まで、リヤカーや牛車で何回も水を運んだそうだよ。

開拓の苦労

生活の様子

土地を肥やす工夫

水への願い

・開拓には、すごい苦労があったんだね。
・はじめはやせた土地だったけど、人々の工夫や努力の積み重ねで少しずつ肥えた土地になったんだね。

台地の水不足をどう乗りこえたのだろうか(豊川用水) ⑦～⑩

・近藤寿市郎が豊川から水を引いて用水路を造る計画をし、人々も何度も願い出た。
・19年の年月がかかった。
・新城から田原まで総距離112km。
・通水したときはみんな手を取り合って喜んだ。

豊川用水通水後
・豊川用水のおかげで、いろいろな種類の作物を作れるようになった。
・水不足の心配がなくなった。
・農業生産額は、38年間日本一になった。

個人新聞にまとめて伝えよう ⑪～⑬

・開拓した人々の苦労や思いを受け継ぎ、水への強い思いから豊川用水を引き、あきらめずに努力や改良を重ねて日本一の農業生産地に発展してきたことがわかったよ。
・開拓で畑が多くなったのに、どうして住宅地になっていったのかな。

その後の移り変わり

次単元へ

地域の歴史に興味を持ち、先人の思いを考えることができる子どもたち

4 本時の授業

(1) 目標

- ・グループで調べたことをもとに開拓の苦労と工夫・努力について聞き、開拓に携わった人々の思いを考えることができる。
(思考・判断・表現)

時間	学 習 の 流 れ		○教師支援	 言語力育成	☆評価
30	開拓について調べたことをもとに、苦労や工夫について発表しよう。				○調べた項目ごとにグループを作り、どの子も発表に参加できるように配慮する。
	「開拓の苦労」グループ ・マツやササが生えた荒地地だったから、まず木を切って根を掘る作業から始めたそうだ。 ・今のように機械はなく、ひとくわずつ手作業で掘り起こした。 ・赤土がかたいので、つるはしも使っていたそうだ。 ・幅が広い開墾ぐわを注文した。 ・仕事は苦しく、体がふらついたり目まいがすることもあった。	「土地を肥やす工夫」グループ ・家畜を飼ってふんを肥料にした。 ・草かりをして作った堆肥を肥料にした。 ・朝早くから町にふん尿やごみを集めに行き、肥料を作って畑にまいた。 ・名古屋から鉄道でもごみを運んだ。 ・国からの補助で炭酸カルシウムを手に入れ、土の性質をよくした。		○調べたことを効果的に発表できるように、前時までにグラフや図を準備するよう助言する。	
	「生活の様子」グループ ・はじめの頃は、食べ物がなくて困った。イモの茎なども食べていた。 ・家の屋根は木の皮や薄い板だったので、雨もりしたり雪が舞い込んだりしたそうだ。 ・電灯はなく、夜はランプで生活していた。	「水不足」グループ ・雨や水無川の水だけでは、水量が足りなかった。 ・台地だから井戸を掘るのも大変だった。 ・リヤカーや牛車で川から一日に何度も水を運んだ。	☆開拓の苦労や工夫についてグループで調べたことを発表することができる。 (発表)	○自分の考えがもてるように、各グループの発表の後に、自分の感想や先人の思いを書く時間を設ける。	
	 苦しい生活の中で、開拓をしていた人々はどうな思いや願いをもっていたのだろうか。			○苦労や工夫・努力を分けて板書することにより、それらを結びつけて考えるためのヒントにする。	
	・自分たちが食べていくのに困らないようにしたい。 ・畑の作物がたくさん収穫できるようになるといいなあ。 ・サツマイモや小麦以外にも、農作物を作りたい。 ・生活する水や畑にまく水に困らないようにしたいなあ。				
40	今日の授業を振り返ろう				○成果について触れるグループがあれば、次時への発展として扱う。
45	・開拓した人々は大変な苦労をし、努力と工夫を重ねて畑を作り上げていった。 ・水や栄養分が不足した荒地地を、りっぱな畑に変えてきたのはすごいことだ。				○なかなか書き出せない子には「苦労・工夫・努力」などのキーワードを示すことで、考えがまとめられるように働きかけ

＜実践の反省と今後の展望＞

- ・調べたことの中でどこを発表するのを選び、どういう風にまとめるかを決めてまとめるまでに、予定時間だけでは難しかった。
- ・劇を取り入れたり、グラフを使ったり絵をかくて説明したりして、各グループが工夫して発表することができた。自分たちのグループなりの工夫を取り入れたので、自分たちの発表する番を心待ちにして、すすんで発表することができた。
- ・発表するときの立つ位置や顔の向きなどに気をつけて発表することができたが、一部に声の小さい児童がいた。
- ・生活の様子や土地を肥やす工夫などについて、当時の人々が収穫量を増やしたい・生活を楽にしたいと願ったことを理解することができた。
- ・あらかじめ、子どものころ開拓に関わった方にお話を聞いていたので、子どもも働かなくてはいけなかったことは知ることができた。調べ学習と発表により開拓の苦労について知ることや想像することはできたが、生活の苦しさを実感することは難しかった。
- ・4つのテーマごとにわかったことや感想を発表する時間をとった。そのため、全部の班が発表するには時間が足りなくなり、大幅に延長してしまった。
- ・内容が一部重複してしまったので、教師があらかじめ把握していろいろな取り上げ方ができるように助言するとよかった。
- ・水不足の発表をする班を最後にしたので、豊川用水をつくってほしい、という願いにつなげることができた。